2022 年 3 月 16 日
公益社団法人日本フェンシング協会

女子エペワールドカップソチ大会を巡る当協会の対応について

主題の件に関し、当協会として把握している事実関係及びこれまでに取ってきた対応について改めて整理し、以下にてご説明致します。これまでに当協会によせられたご質問についてもあわせて回答を開示致します。

---記---

当協会はどのような状況においても、常に選手の安全を最優先とする方針の下で活動しています。この度の遠征・国際大会参加に関しても既に選手・スタッフがロシアに入国している中、関係各所への情報収集・帯同コーチの「現地の安全が確保されており、不安を訴えている選手はいない」との報告を受け、現地時間 2 月 25 日より開催された当該大会への参加を認めてきました。

日本時間 2 月 26 日午後（現地時間 26 日朝）に開催された理事会でも「当協会として大会を棄権すべきか」が発議され、大前提として帯同コーチに状況の変更がない旨を確認した上で以下を決議し、現地に通達しております。

・何よりも選手の心身の安全を最優先するという原則は変わらない。

・日本チーム単独で大会傘下を離れて行動するより、大会傘下に留まり、大会側並びに国際連盟によって安全が確保された上で移動を行う方がリスクは低いと考える。

・スポーツは政治的な争いとは別に選手たちが自由に戦い、自己実現できる場であり、協会による棄権という形で選手の出場権を奪う判断は現時点では適切ではない。ただし、状況が変わった場合にはしかるべき判断を行う。

・選手が棄権の意思を示した場合は当然にそれを尊重する。

上記理事会終了後も会長始め関係理事・スタッフ一同、夜を徹して情報収集を継続し、状況の悪化並びに選手の移動の安全確保が確認できたことから、日本時間 26 日深夜（現地時間 26 日夕方）に帯同コーチを通じ、国際連盟に対し大会の中止または延期の要請と団体戦の棄権を申し入れました。この決定は 27 日 3 時ごろに当協会 SNS にて公表した通りです。

この後、ロシアのみならず海外遠征参加中の全選手並びに保護者・関係者には遠征の続行、または日本への帰国のいずれを希望するかをヒアリングし、全員が希望通り安全に移動しています。

一方、帰国後に選手に行った個別ヒアリングの中で、現地で選手がコーチとのやりとりにおいて不安を感じたという声も聞こえており、その点については大変申し訳なく感じています。実際にどのようなコミュニケーションが行われたかを一言一句正確に把握する術はありませんが、選手と武井が直接対話する場も設定し、選手の不安に至った経緯を直接ヒアリングした上で、協会の方針と対応を正確に説明し、選手の理解を得ています。今後に向けて、選手の誤解を招きうるコミュニケーションについてはコーチに厳正な指導を行うと同時に、そのような誤解を生んだ本質的な原因をしっかりと究明し、しかるべき措置を講じる旨、選手にも伝えております。また、コーチ・アスリート委員会・コンプライアンス窓口以外にも選手が気軽に相談できる体制整備の検討を開始しております。これらの取り組みも先述の通り、選手の安心安全を最優先するという当協会の方針に基づき、迅速に対応を始めているものです。

なお、2 月 27 日に会長である武井が個人アカウントで行った Twitter 投稿に対しても「非常時に楽しそうに食事を行っており軽率だ」として選手内で不信感が高まっている、との指摘を受けております。当該投稿は前日に危篤となった武井の父親が奇跡的に回復したことを本人が喜ぶ旨のものであり、この食事は武井が単独で、業務の合間のわずか 30 分程度で摂ったものです。

この前日も武井は選手の安心安全を最優先に考え、早朝まで対応にあたっていたことは先述の通りです。さらに投稿の前後にも大会に参加していた選手、別の国で遠征続行中の選手のメンタルケアや不安のヒアリング、帰国希望者の確認及びその対応、保護者や所属への確認なども強化本部に指示しながら、自らも選手のフォローにあたっておりました。その隙間の限られた時間に一人で食事をすることすら許されない、その様子をタレント活動の一環として個人のアカウントに投稿することに不信感があるというのは大変心外です。もしこのような誤解をしている選手がいるのであれば、むしろ武井は先頭に立ってアスリートファーストを実践していたことを是非理解してもらいたいと考えます。

また、遠征費用に関しても質問を受けております。選手の自己負担を削減することはかねてより協会の重要課題ですが、大会の参加回数と遠方開催地が多い現状に比して、協会財政が潤沢でないことが根本原因です。協会としても様々な策を講じておりますが、現時点では自己負担がない場合、派遣自体を見送らざるをえません。

[ご参考]

https://fencing-jpn.jp/news/23467/

https://fencing-jpn.jp/news/23487/

遠征の実施に当たっては事前に選手に概要・金額を共有し、十分検討期間を設けた上で希望者のみが参加しています。当然ながら学業や仕事等の優先、負担等ご家族や所属先の状況によって本人が判断して良いこと、参加しないことを持って不利益な扱いはしないことも選手に伝達し、奨学金が必要という申し出があった選手に関しては、そのような外部団体からの制度案内を共有もしております。

また、今年の遠征については新型コロナウイルスの影響で通常より長期間となっています。これは大会と大会の間に帰国すると隔離期間の関係で次の大会に間に合わない、隔離期間中の練習ができないといった理由で、このため通常より費用が大きくなっていますが、この点も選手には事前に説明がなされています。

いずれにせよ、自己負担額を軽減できるような協会財政にしていくため、協賛金等の増額の努力や、中期計画の策定に向けた議論を今後も継続してまいります。

最後に、一部の選手のものとされる発言のみを主張する過度な取材活動（協会広報を通さず選手に DM を送付、アポなしで自宅を訪問、車道に出て来て運転中に取材を申し入れるなど）が続いており、選手やスタッフに物理的精神的負荷がかかり、結果として本質的な協会業務に支障が生じている現状を残念に思っています。当協会は常に誠実に選手に向き合い、運営を改善したいと考えておりますし、改めまして取材は協会を通し、良識的な方法で実施頂きますよう、ご理解ご協力の程よろしくお願い致します。

以上